

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年7月31日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	8月1日(土) 13:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正ー男女共同参画基本計画の実装とジェンダー主流化」
2	8月8日(土) 10:30～13:00	ハイブリッド (日本科学未来館)	日本学術会議・日本科学未来館共同イベント「AIとワタシの未来予想図」
3	8月8日(土) 14:00～16:30	オンライン開催	公開シンポジウム「民主主義と選挙を守るー近年の我が国の政治と選挙環境に関する諸課題」
4	8月11日(火) 10:00～12:15	オンライン開催	公開シンポジウム「有権者は変わりつつあるのかー制度の影響と投票行動の把握ー」 ※英語開催
5	8月16日(日) 13:30～15:30	工学院大学	共同主催国際会議 市民公開講座「AI・半導体・量子を語る」
6	8月17日(月) 13:00～17:40	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「人口減少時代の災害に強いまちづくり、インフラについて考える」
7	8月26日(水) 10:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す持続可能でレジリエントな社会」 ※当初6月3日開催予定だったが、台風6号の接近で延期となったもの
8	8月28日(金) 14:00～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「“こどもまんなか社会”ってなんだろう」
9	8月29日(土) 13:00～16:40	ハイブリッド (リンクステーションホール青森)	東北地区会議学術講演会「未来の仕事と地方のキャリア ～AI時代に地方で生きる、働く、創る～」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。





日本学術会議主催学術フォーラム

社会と学術界における ジェンダー平等・公正

－男女共同参画基本計画の実装とジェンダー主流化

ハイブリッド開催

会場

日本学術会議講堂
東京都港区六本木 7-22-34

参加費無料



お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0380.html>

申込締切 令和8年7月28日(火) 事前参加登録をお願いします。

日本学術会議は、これまで複数回にわたり男女共同参画・ジェンダー平等に関する提言を行ってきたが、日本のジェンダー平等の達成度は、世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数において148か国中118位(2025年)と、長期にわたり低迷している。

2026年の第6次男女共同参画基本計画の策定を受け、改めて「なぜジェンダー平等政策が実効的に機能してこなかったのか」、「何が構造的障壁となっているのか」を学術的に検証し、実効性ある改善策を提示する必要がある。

本フォーラムは、2025年10月に公表した提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正を目指して－2030年に向けた課題－」のフォローアップとして、

- ▶ジェンダー主流化の具体的実装
- ▶男女共同参画基本計画の実効性確保
- ▶学術界・社会における差別・暴力・人材育成の課題解決
- ▶学術振興とジェンダー平等の相互強化 等について、

政策・学術・現場の知見を交差させて議論し、2030年を見据えた具体的アクションにつなげることを目的とする。

同提言の作成には、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第6次男女共同参画基本計画小分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会など、理系文系を問わずすべての学問分野を代表する委員が関わった。本フォーラムの登壇者の専門分野も多様であり、問題を科学的・総合的・包括的に議論する学術フォーラムにふさわしい構成となっている。

2026

8/1

土曜日

13:00~17:30

主催 日本学術会議

後援 東京理科大学、九州大学男女共同参画推進室、津田塾大学言語文化研究所アメリカ文化研究会、津田塾大学女性研究者支援センター、京都女子大学ジェンダー教育研究所、ジェンダー史学会、ジェンダー法学会、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)、技術同友会、粉体工学会、豊橋技術科学大学ダイバーシティ推進センター、北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、国際ジェンダー学会、早稲田大学ダイバーシティ推進室、産業技術総合研究所、東京大学多様性包摂共創センター、大阪大学、日本セラミックス協会、日本物理学会、日本化学会

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL 03-3403-6295



社会と学術界におけるジェンダー平等・公正

ー男女共同参画基本計画の実装とジェンダー主流化

▶コーディネーター

森 初果	(日本学術会議第三部会員／東京理科大学研究推進機構総合研究院教授)
玉田 薫	(日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長)
樋田 京子	(日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授)
三尾 裕子	(日本学術会議第一部会員／慶応義塾大学名誉教授・東京外国語大学名誉教授)
島岡 まな	(日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授)

▶総合司会

島岡 まな	(日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授)
-------	------------------------------

▶スケジュール

13:00 ~ 13:05	開会挨拶 高橋 裕子 (日本学術会議第一部会員／津田塾大学学長・教授)
13:05 ~ 13:15	趣旨説明 島岡 まな (日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授)
第Ⅰ部：現状と問題提起 司会：三尾 裕子 (日本学術会議第一部会員／慶応義塾大学名誉教授・東京外国語大学名誉教授)	
13:20 ~ 13:40	問題提起1 「なぜ5次にわたる男女共同参画基本計画は十分機能してこなかったのか (提言1 & 2関係)」 皆川 満寿美 (日本学術会議連携会員／中央学院大学現代教養学部准教授)
13:40 ~ 14:00	問題提起2 「ジェンダーに基づく差別・暴力の現状 (提言3関係)」 島岡 まな (日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授)
14:00 ~ 14:20	問題提起3 「学術界の人材育成におけるジェンダー不平等の現状 (提言4関係)」 河野 銀子 (日本学術会議連携会員／九州大学男女共同参画推進室教授)
14:20 ~ 14:40	問題提起4 「ジェンダー視点が拓く学術の未来と社会の公正・イノベーションの好循環 (提言5関係)」 渡辺 美代子 (日本学術会議連携会員／特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事)
14:40 ~ 14:50	休憩
第Ⅱ部：課題解決のために (問題提起への応答・改善提案) 司会：樋田 京子 (日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授)	
14:50 ~ 15:10	改善提案1 「ジェンダー主流化と男女共同参画基本計画～実務の観点から～」 大崎 麻子 (特定非営利活動法人 Gender Action Platform 理事、第70回国連女性の地位委員会 (CSW) 日本代表)
15:10 ~ 15:30	改善提案2 「ジェンダーに基づく差別・暴力根絶のために何ができるのかー包括的反差別法の可能性」 木村 草太 (日本学術会議連携会員／東京都立大学政治学研究科・法学部教授)
15:30 ~ 15:50	改善提案3 「学術界の人材育成を平等・公正なものとするためにー特に若手の人材育成を中心に」 川口 慎介 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人海洋研究開発機構技術研究開発部門上席研究員)
15:50 ~ 16:10	改善提案4 「性差医療の可能性」 名越 澄子 (日本学術会議連携会員／埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科客員教授)
16:10 ~ 16:30	休憩
第Ⅲ部：パネルディスカッション 司会：玉田 薫 (日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長)	
16:30 ~ 17:25	パネリスト 三成 美保 (日本学術会議連携会員／追手門学院大学法学部教授) 伊藤 公雄 (日本学術会議連携会員／京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授) 中野 裕美 (日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学シニア研究員・名誉教授) 林 香里 (日本学術会議連携会員／東京大学理事・副学長／東京大学大学院情報学環教授)
17:25 ~ 17:30	閉会挨拶、総括コメント 森 初果 (日本学術会議第三部会員／東京理科大学研究推進機構総合研究院教授)
17:30	閉会



Miraikan

公開シンポジウム：民主主義と選挙を守る ー近年の我が国の政治と選挙環境に関する諸課題ー

- 主催：日本学術会議政治学委員会 現代政治過程における課題分析・制度設計分科会
- 共催：文部科学省科学研究費基盤研究(A)「大規模政治意識調査『JESVIII』による現代民主主義体制の理解・改善・課題解決」
- 日時：令和8(2026)年8月8日（土）14：00～16：30 オンライン開催
- 次第：
 - 14：00 開会 河野武司（日本学術会議連携会員／帝京大学法学部教授）
 - 14：05 報告「『自民一強』は続くのか？ー政党システムの流動化が意味するものー」内山融（日本学術会議連携会員／東京大学大学院総合文化研究科教授）
 - 14：30 報告「第51回衆議院議員選挙の分析」小林良彰（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／九州ルーテル学院大学学事顧問）
 - 14：55 討論・質疑 西川伸一（日本学術会議連携会員／明治大学政治経済学部専任教授）
 - 15：15 報告「公選法における『投票に関する原則』ー現状と今後を考えるー」井田正道（日本学術会議連携会員／明治大学政治経済学部専任教授）
 - 15：40 報告「現代の選挙における選挙ガバナンスの現状と課題」堤英敬（日本学術会議連携会員／香川大学法学部教授）
 - 16：05 討論・質疑 慶済姫（東海大学政治経済学部准教授）
 - 16：25 閉会 谷口尚子（日本学術会議第一部会員／慶應義塾大学法学部教授）

- 参加：一般参加可、参加無料、参加お申し込みフォーム↓

<https://forms.gle/28m4XpGqCK2tqRGB8>

- お問い合わせ：contact.jesproject@gmail.com



Public Symposium : Are Voters Changing?

Understanding the Impact of the Electoral System and Voting Behavior



Organized by the Subcommittee on Analysis of Issues and Institutional Design in Contemporary Political Processes, Committee on Political Science, and Science Council of Japan, and Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology Grant-in-Aid for Scientific Research (A) “Understanding, Improving, and Resolving Issues in Contemporary Democratic Systems through the Large-Scale Political Attitudes Survey ‘JESVIII’”

Date and Time: Tuesday, August 11, Reiwa 8 (2026), 10:00 a.m. – 12:15 p.m. Online

10:00 Opening Hiroki Tsukiyama (Professor, Faculty of Law, Keio University)

10:05 Presentation1 The Unfairness of Fairness: A Note on the Excessive Pursuit of the “One Person, One Vote” Principle, Yuta Kamahara (Associate Professor, Graduate School of Urban Innovation, Yokohama National University)

10:25 Presentation2 Who Uses Early Voting? A Comparative Study of Japan and Australia, Miho Nakatani (Associate Member, Science Council of Japan / Professor, Faculty of Law, Meiji Gakuin University)

10:45 Discussion1 Masakazu Ogami (Specially Appointed Assistant Professor, Graduate School of Law, Keio University; Project Researcher, Institute for Future Initiatives, The University of Tokyo)

11:05 Presentation3 Does Social Media Use Have a Greater Impact on Voters’ Preferences Among Political Leaders Than on Political Parties? Naoko Taniguchi (Member, Division I, Science Council of Japan / Professor, Faculty of Law, Keio University)

11:25 Presentation4 Correcting Nonresponse and Social Desirability Bias in Online Surveys, Masataka Harada (Associate Professor, Graduate School of Information Sciences, Tohoku University), Tetsuya Matsubayashi (Professor, Osaka School of International Public Policy, the University of Osaka) and Ikuma Ogura (Assistant Professor, Graduate School of Social Sciences, Hitotsubashi University)

11:45 Discussion Hiroki Tsukiyama (Professor, Faculty of Law, Keio University)

Registration Form <https://forms.gle/b3RvxRoeysPEKZZm9>
Contact: contact.jesproject@gmail.com



公開シンポジウム：有権者は変わりつつあるのか —制度の影響と投票行動の把握—

主催：日本学術会議政治学委員会 現代政治過程における課題分析・制度設計分科会

共催：文部科学省科学研究費基盤研究(A)「大規模政治意識調査『JESVIII』による現代民主主義体制の理解・改善・課題解決」

日時：令和8年（2026年）8月11日（火）10：00～12：15オンライン開催・英語

10：00 開会 築山宏樹（慶應義塾大学法学部教授）

10：05 報告 The Unfairness of Fairness and the Fairness of Unfairness: Beyond the Excessive Pursuit of the "One Person, One Vote" Principle
鎌原勇太（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）

10：25 報告 Who Uses Early Voting? A Comparative Study of Japan and Australia
中谷美穂（日本学術会議連携会員／明治学院大学法学部教授）

10：45 討論 尾上成一（慶應義塾大学大学院法学研究科特任助教、東京大学未来ビジョン研究センター特任研究員）

11：05 報告 Does Social Media Use Have a Greater Impact on Voters' Favorites Among Political Leaders Than on Political Parties?
谷口尚子（日本学術会議第一部会員／慶應義塾大学法学部教授）

11：25 報告 Correcting Nonresponse and Social Desirability Bias in Online Surveys
原田勝孝（東北大学大学院情報科学研究科准教授）、松林哲也（大阪大学大学院国際公共政策研究科教授）、小椋郁馬（一橋大学大学院社会学研究科専任講師）

11：45 討論 築山宏樹（慶應義塾大学法学部教授）

一般参加可、参加費無料

お申込みフォーム <https://forms.gle/b3RvxRoEysPEKZZm9>

お問合せ contact.jesproject@gmail.com



市民公開講座

参加無料

AI・半導体・量子を語る



AIの発展

杉山 将（理化学研究所、東京大学）



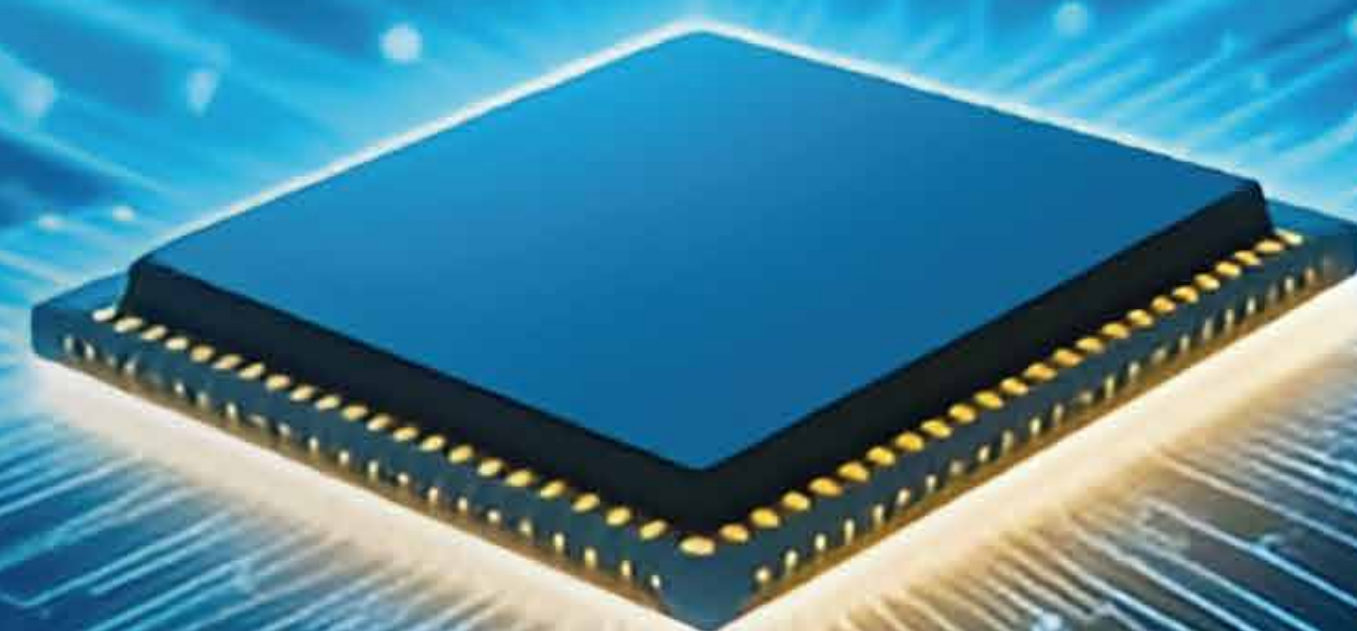
半導体の発展

平本 俊郎（東京大学）



量子技術の発展

鯨岡 真美子（東芝）



半導体物理の社会への展開のうち、今後の社会に大きな影響を与えるAI、半導体デバイス、量子技術について、わかりやすく解説します。本市民講座は、半導体物理国際会議（ICPS2026、8月16日～21日、京王プラザホテル/工学院大学）に先立って開催され、どなたでも無料で参加できます。

2026年 **8月16日(日)** 午後1:30～午後3:30

場所

工学院大学 新宿キャンパス
3階 アーバンテックホール

プログラム

司会：田中 雅明 半導体物理国際会議（ICPS2026）実行委員長

1:30 - 1:35 開会挨拶 ▶ 荒川 泰彦 半導体物理国際会議（ICPS2026）組織委員長

1:35 - 2:05 AIの発展 ▶ 杉山 将 理化学研究所、東京大学

2:05 - 2:35 半導体の発展 ▶ 平本 俊郎 東京大学

2:35 - 3:05 量子技術の発展 ▶ 鯨岡 真美子 東芝

3:05 - 3:25 総合討論（パネルディスカッション）

3:25 - 3:30 閉会挨拶 ▶ 平川 一彦 半導体物理国際会議（ICPS2026）プログラム委員長

会場アクセス



右のQRコードより
事前申し込みを
お願いします。▶



URL <https://forms.gle/7YULY64Za8p7YBQDA>

公開シンポジウム

人口減少時代の災害に強い まちづくり、インフラに ついて考える

2011 年東日本大震災、2024 年能登半島地震の経験を経て、少子高齢化の進む地域においては従来の「災害前に戻す」災害復興の在り方に課題が生じています。本シンポジウムでは、人口減少という現実を見据えたうえで、地域に最適な復興後のイメージと将来像を災害発生前に議論し策定しておくことの重要性や、災害の有無に関わらず描く未来の地域のグランドデザインの在り方についてご講演をいただき、議論を行います。

日時：

令和 8 年 (2026 年)
8 月 17 日 (月)
13:00 ～ 17:40

場所：

日本学術会議講堂＋
ZOOM ウェビナーによる
ハイブリッド開催

主 催：

日本学術会議 土木工学・建築学委員会
複合災害と人口減少時代の建築・都市・
地域分科会、インフラレジリエンス分科会

後援：

日本建築学会 土木学会

参加費：無料

定員：300名（日本学術会議会場 100 名）

申込方法：右フォームより申し込みください

<https://forms.gle/GhfXBCMKh2vGtnR59>



プログラム

主旨説明：多々納裕一（京都大学教授） 13:00-13:10

基調講演： 2011 年東日本大震災後の復興の経験とこれからの事前復興のありかた
13:10-13:50 姥浦道生（東北大学教授）

第 1 部：人口減少地域のまちづくりと長期計画のありかた 14:00-15:15

14:00 歴史的視点より見た地方創成戦略：目黒公郎（東京大学教授）

14:15 能登半島地震・豪雨災害の復興経験から：片桐由希子（金沢工業大学准教授）

14:30 法学から見た土地所有・利活用と公共の利益：西希代子（慶応義塾大学教授）

14:45 「避難しないで済む」地域の建築耐災害性能の担保と方策：久田嘉章（工学院大学教授）

15:00 過疎地における生活交通確保の課題とその方策：松尾美和（神戸大学教授）

第 2 部：人口減少地域のインフラ計画と維持体制のありかた 15:25-16:40

15:25 人口減少下のインフラマネジメントの課題とその対処法：小林潔司（京都大学特任教授）

15:40 越境しあうインフラガバナンスを実現するために：高橋良和（京都大学教授）

15:55 インフラ健康診断書 2024 から見えるインフラの現状と課題：中村 光（名古屋大学教授）

16:10 少子高齢化時代のインフラに求められる機能とは：松田曜子（京都大学准教授）

16:25 持続可能なインフラマネジメントの実現に向けて：大西正光（京都大学教授）

第 3 部：パネルディスカッション 16:50-17:30

まとめ：竹内 徹（東京科学大学名誉教授） 17:30-17:40

分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す 持続可能でレジリエントな社会

防災減災連携研究ハブ(JHoP)は、防災・減災に関わる大学、研究機関、実務機関の20組織が連携し、災害リスクの軽減、持続可能な開発、気候変動適応という相互に関連する社会課題の統合的な解決を目指して活動するネットワークです。シンポジウムでは、JHoP 参画機関の登壇者が多様な実践を紹介するとともに、日本学術会議より2026年4月10日に発出された提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」とJHoPの4つの活動を掛け合わせて議論し、学術と社会をつなぐ防災減災の連携強化を目指します。

JHoPを核とする、産官学民連携による研究推進・人材育成のネットワーク



プログラム

10:00 オープニングセッション

開催趣旨、JHoPの紹介：寶 馨（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

提言：壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーションの概要

田村 圭子（日本学術会議第三部会員、新潟大学危機管理本部危機管理センター特任教授）

10:40 第一セッション：災害にレジリエントな都市に向けた減災政策（第3章）×scienceに基づく政策形成

進行：大原 美保（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授）

13:00 第二セッション：防災情報の発信と流通（第6章）×情報基盤の標準化

進行：栗林 大輔（IRDR 活動推進小委員会委員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター 上席研究員）

14:30 第三セッション：都市防災の担い手（第7章）×人材育成と教育体制強化

進行：田村 圭子（日本学術会議第三部会員、新潟大学危機管理本部危機管理センター特任教授）

16:00 第四セッション：メガシティの防災のための科学技術イノベーション（第8章）×産学官民連携

進行：臼田 裕一郎（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長）

17:20 おわりに：多々納 裕一（日本学術会議第三部会員、京都大学防災研究所社会防災研究部門 教授）

※各セッションではJHoP参加組織の登壇者が活動を紹介し、提言の実現に向けた取組みについてパネルディスカッションを行います。

日時：令和8年8月26日（水）10:00～17:30

参加費無料

場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）オンライン配信あり
東京都港区六本木7-22-34

事前参加登録をお願いします。申込締切 8月19日（水）正午

申し込みサイト https://www17.webcas.net/form/pub/bosai/jhop_0826

お問い合わせ：防災科学技術研究所 JHoP事務局 info-jhop@bosai.go.jp



“こどもまんなか社会” ってなんだろう

2023年4月、こども家庭庁が発足、同年5月にこども基本法が施行され、『こどもも大人も皆が幸せな生活を送ることのできる「こどもまんなか社会」の実現』を掲げて、子どもの総合的政策と体制の予算策定に向けて動き出している。しかしながら、OECD諸国と比較しても子どもの幸福度が著しく低いと評される日本の子どもが、健やかに過ごす上での社会的環境は良くなるどころか悪化するばかりである。その改善に向けては、経済的な支援に留まらず、精神面での人的支援がより重要であり、また子どもに直接関わる地域社会の意識の変革、その生活空間の改変も必要となってくる。

子どもの成育環境改善に向けては、分野横断的に、多角的に捉えていくことが必要である。「子どもの成育環境分科会」は、分野横断的に18年の長期にわたり、子どもの成育環境について検討を続け、空間・時間・方法・コミュニティと4つの課題について繰り返し提言・報告をおこなってきた。

特に、ここ数十年で子どもの捉え方や支援の仕方の変容は目まぐるしい。こども家庭庁がスタートし「こどもまんなか社会」のスローガンは他分野でも少しずつ浸透しつつあるが、未だ子ども関係の業界のみにとどまっている印象もある。「少子化なのになぜ、社会全体で子どもにそこまでやらなければいけないのか」「子どもだけをまんなかにしても解決しないのでは?」「子どもの最善の利益ってなに?」というモヤモヤを抱きながら“子どもをまんなか”にする意味、手法を模索している。

そこで本フォーラムでは、第1部で現代社会において変容する子どもと子どもを取り巻く環境について、各学問分野の最新の研究事例を用い多分野領域から子どもの健全な成育環境について捉える。第2部では、こども家庭庁の現在の取り組みを踏まえ、本来の「こどもまんなか社会」の真髄に迫る。

開催日 令和8年 **8月28日**^(金)
14:00~17:00

申込締切

8月25日(火)

事前参加登録をお願いします。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0379.html>



会場

日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

参加費無料

ハイブリッド開催

主催 日本学術会議

共催 公益社団法人こども環境学会

後援 公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本家族看護学会、一般社団法人日本小児看護学会、日本子ども健康科学会、一般社団法人日本子ども虐待防止学会、幼児教育史学会、

日本教育政策学会、一般社団法人日本建築学会

企画 日本学術会議土木工学・建築学委員会・心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同「子どもの成育環境分科会」

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL 03-3403-6295



“こどもまんなか社会” ってなんだろう

▶コーディネーター・司会

湯川 嘉津美	(日本学術会議連携会員／上智大学名誉教授)
安部 芳絵	(日本学術会議連携会員 (特任)／工学院大学教育推進機構教職課程科教授)

▶スケジュール

14:00 ～ 14:05	開会挨拶
	高橋 尚人 (日本学術会議第二部会員／国際医療福祉大学医学部教授)
14:05 ～ 14:25	趣旨説明
	三輪 律江 (日本学術会議連携会員／横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授)
第一部	
14:25 ～ 14:40	報告「AI 共生時代に必要となるヒトの脳とこころの発達支援」
	明和 政子 (日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授)
14:45 ～ 15:00	報告「Special health care needs のある子どもときょうだい児を含む家族全体のウェルビーイング」
	浅野 みどり (日本学術会議連携会員／修文大学看護学部小児看護学教授／名古屋大学名誉教授)
15:05 ～ 15:20	報告「不登校、社会的養護等の子どもたちの居場所」
	石崎 優子 (日本学術会議連携会員／関西医科大学小児科学講座診療教授)
15:25 ～ 15:40	報告「子どもたちの過ごす学校、学習環境と地域社会」
	斎尾 直子 (日本学術会議連携会員／東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授)
15:40 ～ 15:50	休 憩
第二部 ディスカッション「“こどもまんなか社会” ってなんだろう」	
15:50 ～ 16:05	「こども家庭庁の取組み」
	藤原 朋子 (こども家庭庁官房長) (予定)
16:05 ～ 16:50	ディスカッション
	司 会 湯川 嘉津美、安部 芳絵
	パネリスト 藤原 朋子、明和 政子、浅野 みどり、 石崎 優子、斎尾 直子、三輪 律江
16:50 ～ 17:00	まとめと閉会挨拶
	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
17:00	閉 会

未来の仕事と地方のキャリア

～AI時代に地方で生きる、働く、創る～

生成AIをはじめとする情報技術の急速な進展は、あらゆる産業・職業のあり方を変えつつある。地方においては少子高齢化・人口流出が深刻であり、特に東北・青森地域では若い理系人材の都市部流出が長年の課題となっている。一方でAIの普及・デジタル化の進展は同時に、地方でのスタートアップ創出、リモートワーク、研究・技術人材の活躍フィールドを大きく広げる可能性をもたらしている。

また、核融合・介護・看護・医療など、地方の社会課題と直結した分野でのキャリア形成や、東北復興から生まれる新産業の担い手育成も注目される。さらに、女性が理系・技術系キャリアを選択しやすい環境整備は、地域の持続的発展において不可欠な要素となっている。

本講演会では、高校生・保護者・大学生・教員を主な対象として、研究者・起業家・産業界の第一線で活躍する講師を迎え、AI時代における地方でのキャリアの可能性と魅力を多角的に紹介する。

日時

2026年8月29日(土)
13:00～16:40

場所

リンクステーションホール青森
5F大会議室 (青森県青森市堤町1-4-1)

ハイブリッド開催

※後日オンデマンド配信予定

参加無料

□ 事前登録制 □
どなたでもご参加できます

日本学術会議って知ってる？

日本全国の科学者を代表し、国の政策や社会課題に対して科学的な助言を行う「科学者の国会」だよ。高校生の教科書や未来の社会づくりに、専門知識を通じて深く貢献しているよ。

<https://www.scj.go.jp/>



●駐車場スペースには限りがあります。

▶ 参加申し込みはこちら

下記URLまたはQRコードより
事前申し込みをお願いします。 締切: 8.23(日)

<https://forms.gle/cngfYtaJxpiwZ9829>



次第

●司会進行: 佐古 和恵 (日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授)

13:00～13:10 開会挨拶

日比谷 潤子 (日本学術会議副会長、国際基督教大学名誉教授)
澁谷 泰秀 (青森大学学長)

13:10～13:15 開催趣旨の説明

下條 真司 (日本学術会議第三部会員、青森大学ソフトウェア情報学部教授)

13:15～14:35 講演

I 基調講演

「大学発スタートアップで描く未来 一地域資源を生かしたもののづくりと社会実装」
北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科副研究科長・教授)

II 地方での教育

「地方の未来を変える女子×テクノロジー
～AI教育の現場と提言から見てきたこと～」
森田 久美子 (特定非営利活動法人 Waffle)

III 企業・大学・多様なキャリア

「企業と大学におけるアクセシビリティ研究者としてのキャリア」
浅川 智恵子 (日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学大学院理工学研究科特任教授、日本科学未来館館長、IBM Fellow Emerita)

IV 核融合事例 (遠隔講演)

「フュージョンエネルギーによる新たなまちづくりと青森県が果たす役割」
武田 秀太郎 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授)

15:00～16:35 パネルディスカッション

「地方におけるキャリアとダイバーシティ～AI時代を生き抜くために～」

●コーディネーター: 石井 重成 (青森大学社会学部社会学科准教授)

パネリスト:

- ・講演者: 北川 尚美 / 森田 久美子 / 浅川 智恵子 / 武田 秀太郎
- ・木村 直子 (日本学術会議第二部会員、山形大学大学院農学研究科教授)
- ・大場 みち子 (日本学術会議第三部会員、京都橘大学デジタルメディア学部デジタルメディア学科教授)
- ・学生有志

16:35～16:40 閉会挨拶

五十嵐 和彦 (日本学術会議第二部会員・日本学術会議東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医学系研究科教授)

主催: 日本学術会議東北地区会議

共催: 学校法人青森山田学園青森大学、国立大学法人東北大学

【お問合せ先】 日本学術会議東北地区会議事務局(東北大学研究推進課内)
TEL.022-217-4840